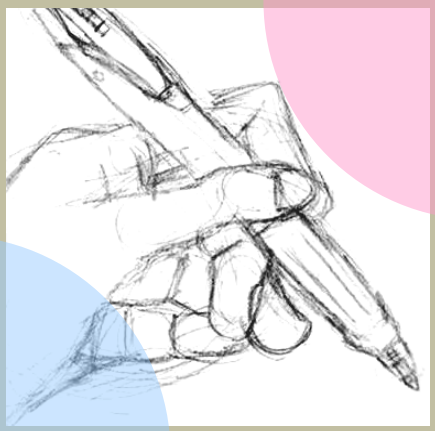
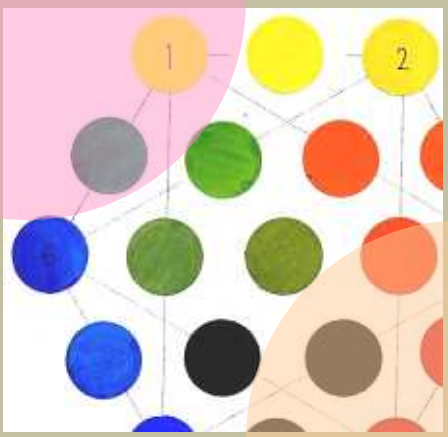
教育課程研究指定校事業研究協議会





岡山大学
教育学部
附属中学校
美術科

研究主題

17～19年度までの研究テーマ

共通研究主題「学びの本質を追究する中学校教科教育のあり方」

形・色・材料を介して学ぶ喜びや価値を実感する生徒の育成をめざして

題材間の関連性系統性を重視した単元構成の工夫

造形要素を学び活かすこと

- 造形要素に関する理解を深めること
- 造形要素からイメージを豊かに創出すること

新学習指導要領〔共通事項〕

- ア　形や色彩、材料、光などの性質やそれらがもたらす感情を理解すること
- イ　形や色彩などの特徴を基に対象のイメージをとらえること

20年度の研究テーマ

形・色・材料を介して思考判断し、

意味や価値をつくりだす生徒の育成をめざして

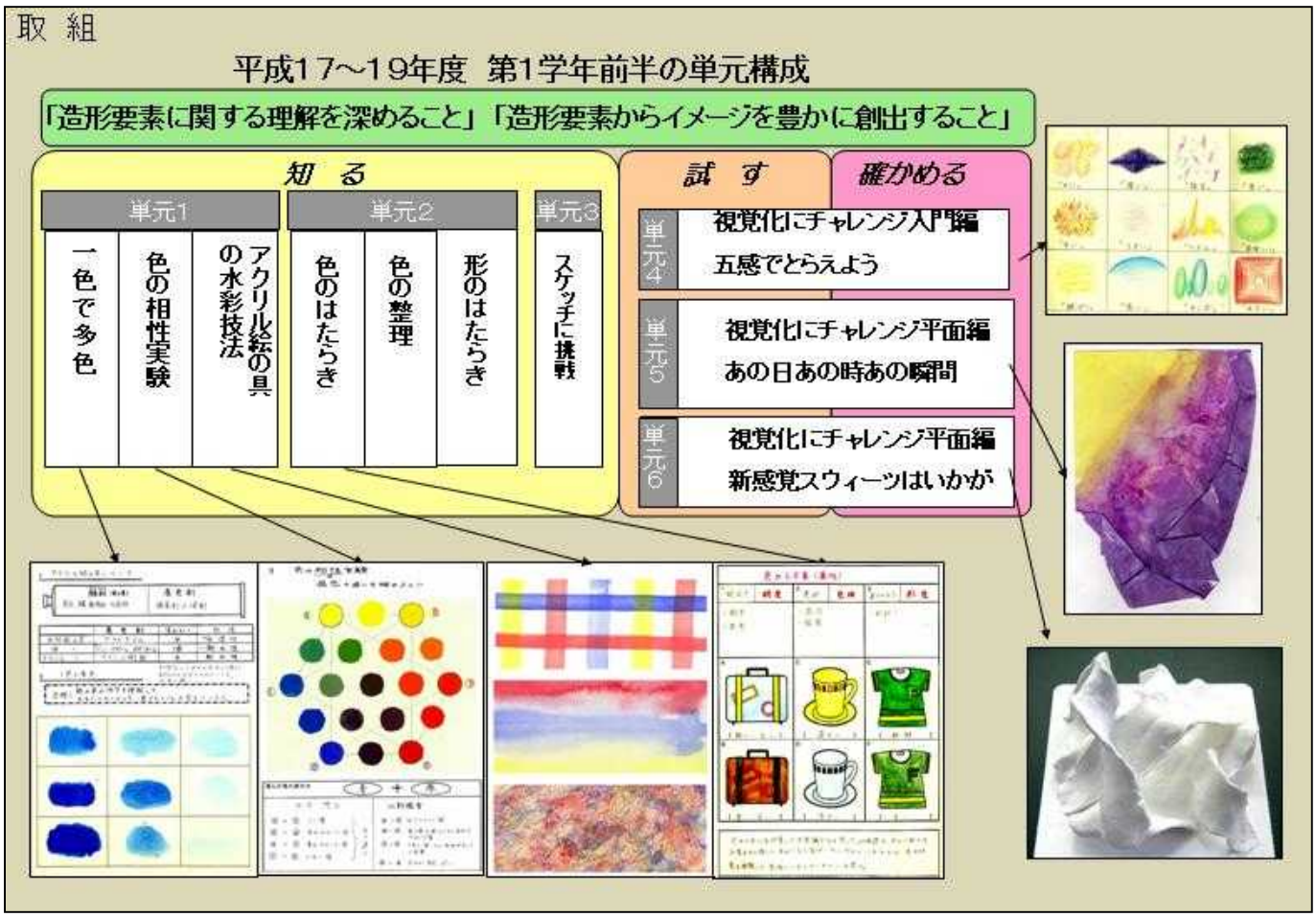
〔共通事項〕を明確に位置づけた単元構成からの考察

本校では平成17年度から19年度にかけ，本校の共通研究主題「学びの本質を追究する中学校教科教育のあり方」を受け，テーマをこのように設定し,「なぜ美術を学ぶのか，美術の学びの成果とは何か」を、生徒の美術の学びに対する喜びや価値意識の変化を検証しながら研究に取り組んできました。

この研究では，まず，現授業時数において効果的な指導計画をめざし,
「題材間の関連性や系統性」を重視した単元構成を行い,授業実践の成果を確かめようとしました。そして，この研究過程で「美術科ならではの学び」として重視してきたのが，
「造形要素に関する理解」と「造形要素からイメージを創出する力」の育成など,
「造形要素を学び活かすこと」ことです。

これらは，この度新学習指導要領で示された〔共通事項〕の内容に相当するものです。この〔共通事項〕は,美術の全領域分野にわたって　「豊かに感じ取る力，見取る力，思考する力」の育成を図るためのであり，「発想構想する能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」などの資質や能力を育むために必ず活用されるものです。

そこで２０年度の研究は，これまでの研究を踏まえ主体的に思考判断しながら表現及び鑑賞活動に取り組み，自分なりの意味や価値をつくりだすことのできる生徒の育成をめざして〔共通事項〕を指導内容に明確に位置付けた単元構成の在り方の提案,考察を行うことを研究テーマとしました。



これは平成１７から19年度にかけて、
本校で実践してきた第１学年前半の題材配列及び単元構成を示したものです。

生徒が主体的に美術の基礎的能力を身に付けていけるよう

「 知 る 」　「 試 す 」　「 確かめる 」

の３段階の学習場面を設定し,
各題材間の関連性系統性を重視した単元構成を行いました。

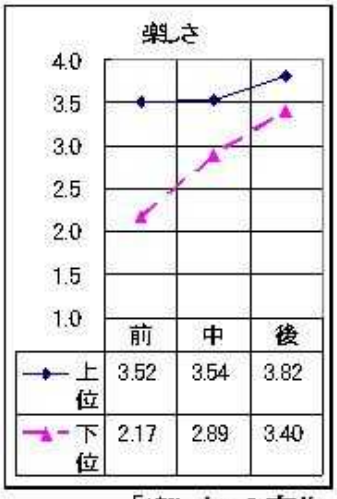
その結果 次ぎのような一様の成果は得られましたが・・・

平成17年度から19年度の研究成果　第1学年 楽しさ 価値意識の数値変化

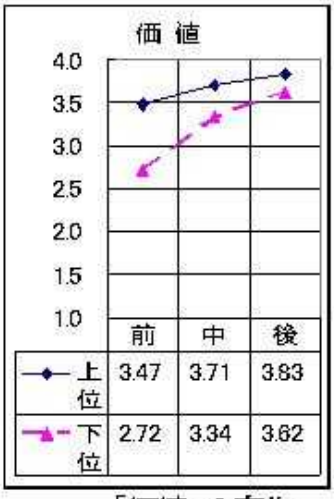
授業前後（前…入学時，中…「知る」段階終了時，後…「試す」・「確かめる」段階終了時）に下記のアンケートを実施。アンケートの学習前の回答より，上位群（楽しさ・価値ともに３点以上 … 110人 ），下位群（楽しさ・価値のいずれか２点以下 … 74人 ）にグループ化し，それぞれの群の授業前後の美術に対する「楽しさ」及び「価値」の変化　　と下位群の生徒の理由の変化を示した（表４）。

現在のあなたの美術に対する感じ方の位置を選び，その位置を選んだ理由を教えてください。

アンケートの内容



「楽しさ」の変化



「価値」の変化

平成17年度から19年度の研究成果　第1学年 楽しさ 価値意識の記述変化

生徒	前　入学時		中　「知る」終了時		後　「試す」「確かめる」終了時	
A	位置 8	美術は絵の具を使って描くところは楽しいと思うが将来役に立つかといえばそうではない。画家にならなければ意味がない。	位置 3	色の勉強スケッチをすることで美術の技術の幅が広がった。テストでは点は出せなかったが，楽しかったしきっと価値のあるものだと思う。	位置 1	制作がとても楽しかったし何よりも自分の手でものを作り上げていくことを実感できた。それを実感することに価値があると思った。
B	位置 10	ものをつくるのは好きだけど描いたりするのは特徴がつかめないのでいやだ。	位置 2	ドライブラッシュとかやっていろいろな色の塗り方があることがわかった。いろんな塗り方をするとべた塗りしたときと感じが変わった。	位置 1	今まですべての授業がつながっていたことがわかり，これからの美術に対する思いが変わった。自分の思ったことを表現できることが最高です。
C	位置 12	どのように自分の思いや考えていること形に表せばよいかわからないし，つい周りの人と比べてしまい自分の作品を恥ずかしく感じてしまう。	位置 3	美術と生活がつながっていることがわかって，美術面からも生活面からも美術を見つけたくなった。美術館にいくのも好きになった。	位置 1	美術から学んだほとんどのことが身の回りのことに関係していることがわかり，どんどん学びたいと思っているから。
D	順位 14	絵がへたくそだし不器用だから。	順位 12	頭の中で将来どのように役に立つのかわからない。	順位 4	ものをいろいろな視点から見るのに美術はとても大切だと思う。

平成19年度 第1学年 生徒記述 「私と美術」

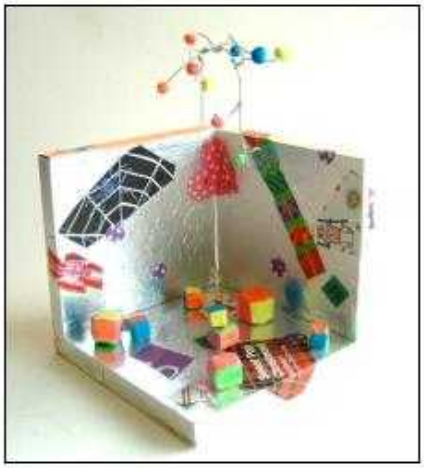
美術は、ものをそのまま描くだけではなく、そこに*思いを込めたり目には見えない感情を視覚化して見る人達に伝えていく役割をもっている*のだと授業を受けて感じました。でも、その伝えたいことを*どうすれば伝えられるのかを知らなくてはなりません。*そこで、*技法を学び深く表現できるようにする*のです。また、*美術の学習では学んだことが次から次へと生きてくるところも楽しい*です。

私は初め*「美術は教養であって生きていく上ではあまり必要ない」*と考えていました。でも最初の「色」の勉強をしたときに、*私たちは色から、イメージや雰囲気を受け取っている*ことを知りました。今から考えると*当たり前のこと*かもしれないけれど、私はそのとき*ものすごく驚き納得した*のを覚えています。*色や形などといった自分のすぐ身のまわりりから私たちは情報を受け取ったり、気持ちを考えたりしているんだ*なと思いました。だから、今はそういう*色や形で感情を表したり理解したりする美術が生きる中で大切なものなんだ*と思います。

平成19年度卒業 第3学年生徒制作「立体による自我の追究」と 生徒記述 「私と美術」

他人から学ぶという勉強が多い中，自分から学ぶ美術でいつもいつも作品の案を考え楽しい時間が送れました。一日中美術だったらと思うときもあるほどでした。私にとって美術は自分を知るための大切な手段だと思います。自分が自分に伝える自分。そのとき，そのときだけの気持ちを形に残しておくことは，いわば「日記」のようなものです。後で自分の気持ちを見てみたときに自分の気持ちを大切にできるよう私は自分の 美術を大切にしていきたいと思います。

美術の中で実技的な物はそんなに多くないのではないかと思う。もし美術が技能を鍛えるだけにあるのなら鑑賞の授業の意味がなくなる。技術を手に入れるのなら絵のうまい人の作品を真似るだけだ。でもそんなことはしなかった。鑑賞することは「描き手作り手の感性を理解する」ことかそれに近い物だと思う。数学とかは高校・大学で生かす物だけど、美術は社会人になって初めて本領発揮すると思う。わかったような言い方かもしれないが美術は相手の中に、見えない物を見つける理解することを学ぶ教科だ。学生を卒業して社会人になったとき自分がどれだけ美術を勉強してきたかがわかると思う。

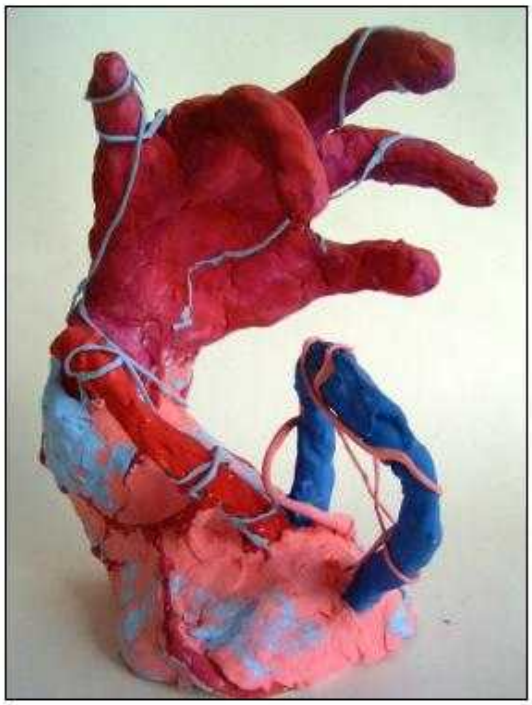


平成19年度卒業　第3学年生徒制作「立体による自我の追究」と　生徒記述　「私と美術」

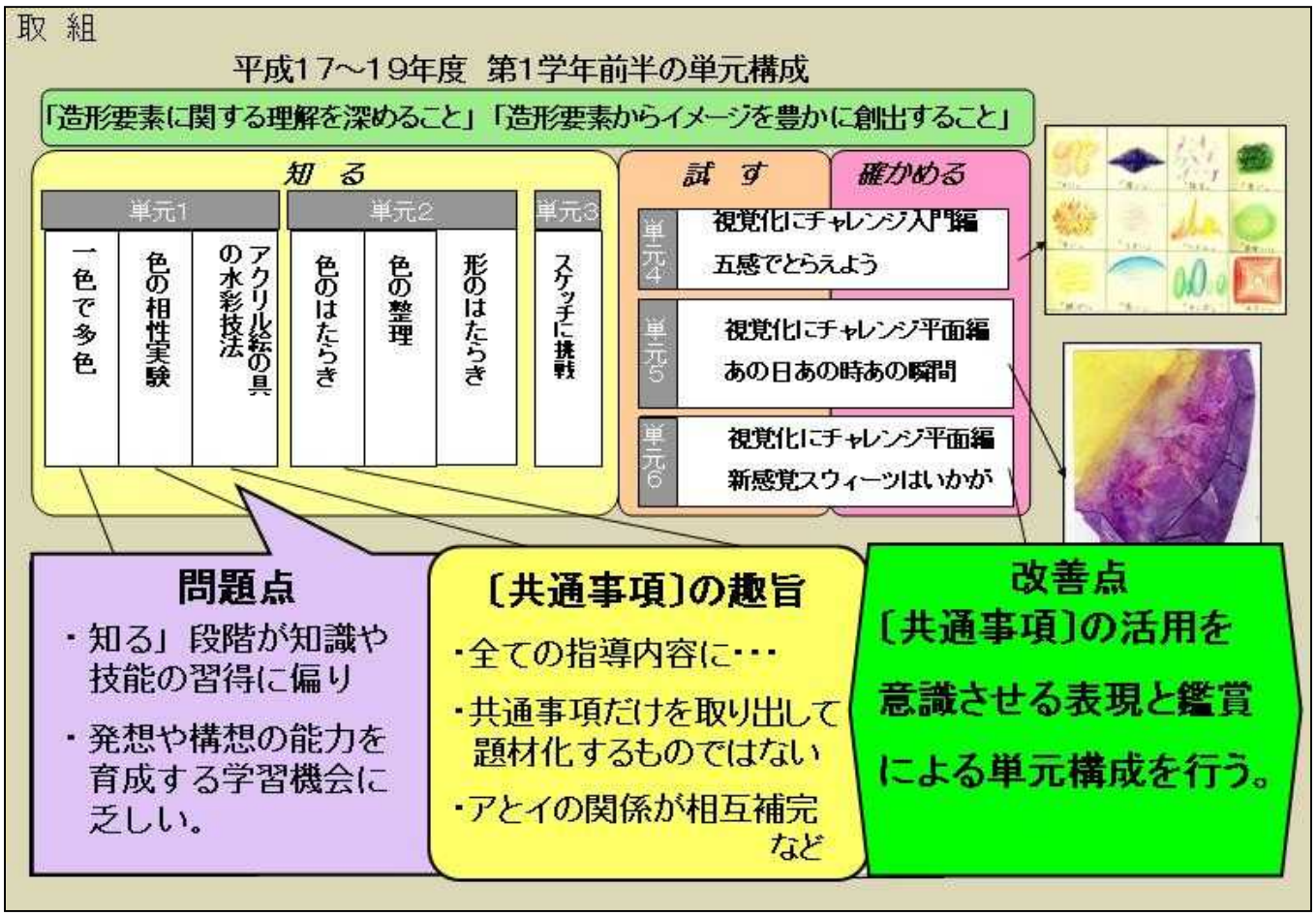
3年間でものすごくいろいろなことを経験した。作品を見てもわかるように成長の色が見える。作品を追って見ていくとそのときごとに名前が付けられるくらい作品の雰囲気がガラリと変わっているところがいくつかある。それは私自信が変わったからではないだろうか。つまり美術は「私をうつす鏡」だ。私を最大限に引きだしてくれる。私の中で美術はただの「学習」ではない。(中略)何かを美術の力を借りて仕上げると悲しかったことでもすごくきれいになってうれしくなる。私を成長させてくれる世界で一番素敵な鏡。それが私にとっての美術だと思う。

与えられた題材によってどこまで自分をさらけ出せるか。どこまで自分の感情を見つめ制御し表現できるか。その中で自分はどういう存在なのだろうか。美術からそれを学んだ。美術は教科であるが，精神面を鍛えてくれるもの。美術は自分と向き合うことのできる教科であると思った。

平成19年度卒業　第3学年生徒制作「立体による自我の追究」と　生徒記述　「私と美術」



「美術は単に絵を描いたり作品をつくる教科である」これは中学校1年生の最初の自分の考えを大袈裟にしたものだ。自分はこの作品をつくり続ける図工は嫌いではなかったが、自分でも驚くほど絵を描いたり作品をつくるのは苦手だった。そのため美術は図工の名前が変わるだけぐらいに思っていたが、現実は違っていた。もちろん美術にも作品制作はある。ただしここからが図工と違う。絵を描くとなると、美術では色の勉強から始まる。自分の印象深かった授業の一つに「色から感じられる重量温度質感」についての授業があげられる。触感から感じれれるはずの重量や温度が触れてもいない物から感じられる。今まで何気なく見ていた周囲の物に対する価値観が少し変わったような気さえした。また、授業の目的は「制作」のその向こうにある。図工との決定的な違いだろう。「美術は作品をつくる中で知識や感受性を養う教科である」これは中学校3年生現在の自分の考えである。

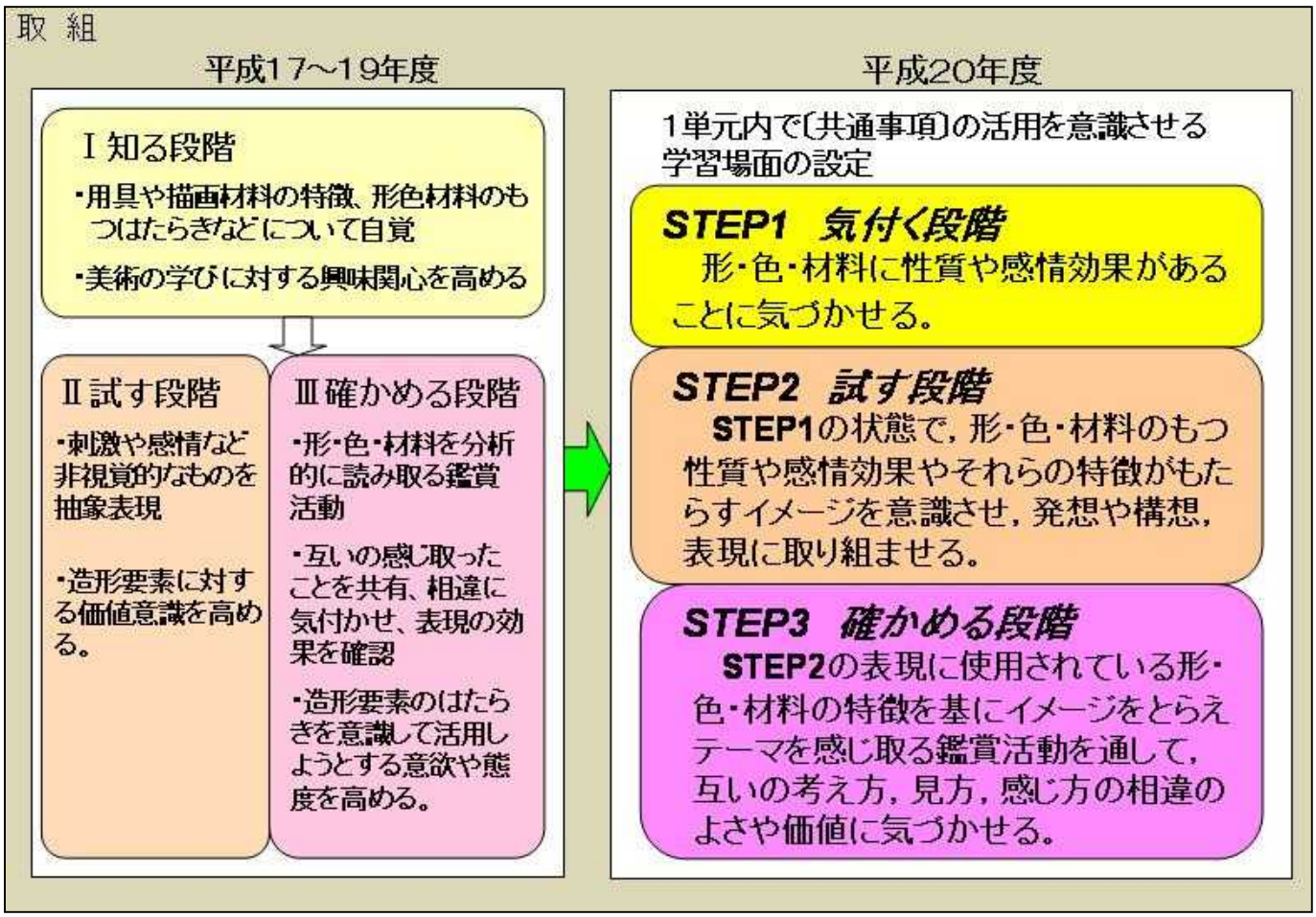


「 知 る 」段階が知識や技能の習得に偏っており、
発想や構想の能力を育成する学習機会に乏しい
などの問題点が浮き彫りになりました。

そこで本年度の研究課題として、　〔共通事項〕の趣旨が

「全ての指導内容に位置づけられるもの」
「共通事項だけを取り出して題材化するものではないこと」
「アとイの関係が相互補完し合うもの」

であることを理解・重視し，２０年度からは、
生徒がこの〔共通事項〕を活用しながら表現や鑑賞を行えるよう、
各題材の指導内容に〔共通事項〕を明確に位置付けた単元構成の改善を行うことにしました。

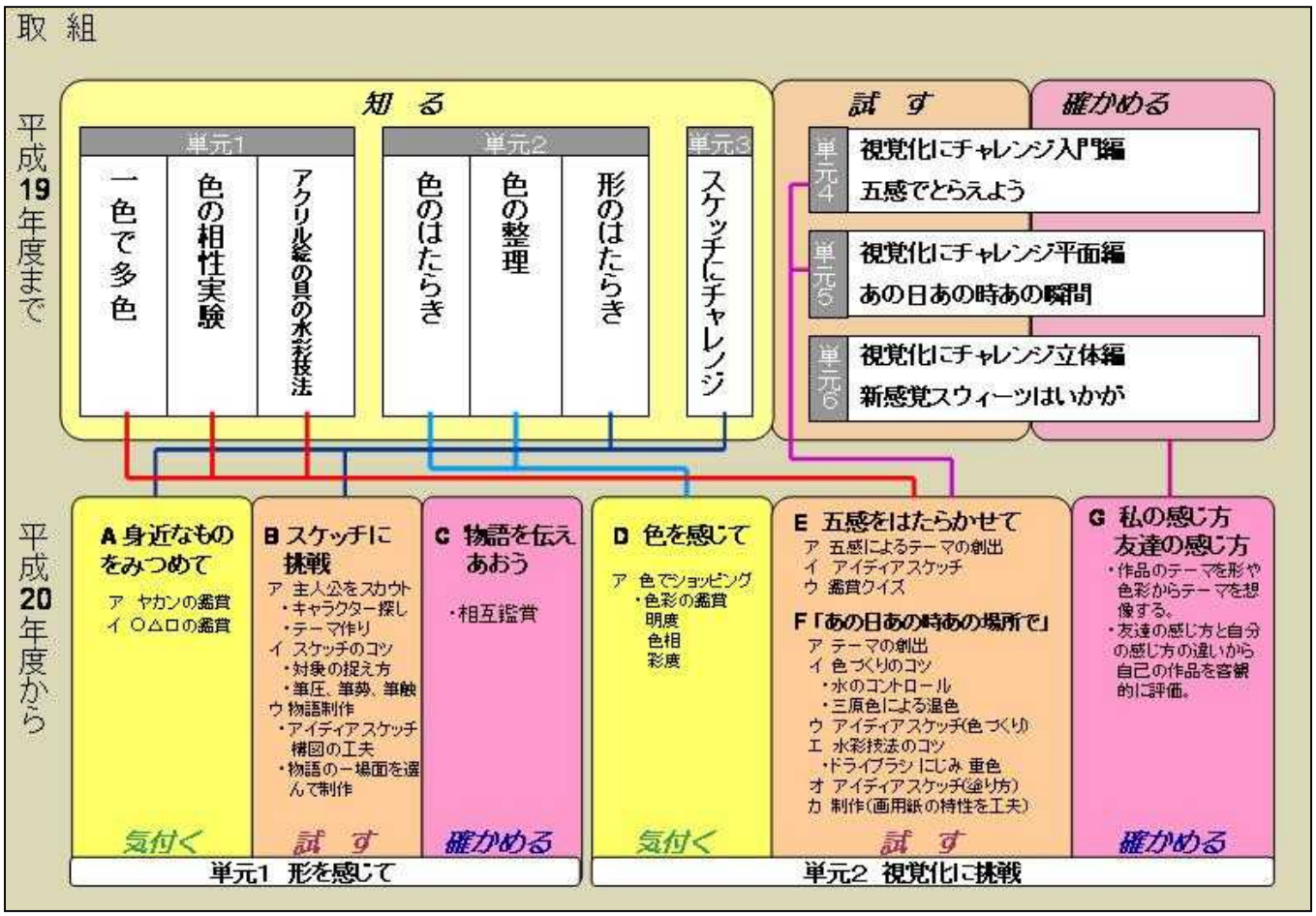


具体的には、これまでの「知る・試す・確かめる」の３段階の学習場面をあらため、

〔共通事項〕を活用し表現や鑑賞に取り組みながら創造的な基礎的能力を身に付けていけるよう

「 気付く 」　「試す」　「 確かめる」

の３段階の学習場面を、各単元内に設けるように改善を図りました。



この図は、１９年度から２０年度への単元構成及び題材配列の改善の様子を示したものです。

２０年度は、ご覧のように<u>１単元内で「３段階」</u>の学習場面を設定しました。

実践事例Ⅰ

5時間	単元１　「形を感じて」
Ⅰ	対象のとらえ方や描画材料の扱い方などを身につけスケッチを楽しみながら，形のはたらきに対して興味関心を持たせる。

	題材名及び主な学習活動	観		指導内容（太字（共通事項））
気付く段階	A 「身近なものをみつめて」 ア　ヤカンの鑑賞 イ　○△□の鑑賞	Ⅳ	(1)ア	形の特徴に着目した鑑賞を行い，**形のもつはたらきを感じ取ら理解させる**とともに多様な見方感じ方を広げさせる。
試す段階	B 「スケッチに挑戦」 ア 主人公をスカウト ・キャラクター探し ・テーマ作り イ スケッチのコツ ・対象の捉え方 ・筆圧、筆勢、筆触 ウ 物語制作 ・アイディアスケッチ 構図の工夫	Ⅱ	(1)ア	身近なものの**形の特徴から性質や性格などを想像して**テーマを創出させる。
		Ⅱ	(1)イ	身近な自然物や生活用品等をいろいろな方向から観察し，**対象から感じ取ったイメージを活かしながら**構図を工夫させる。
		Ⅲ	(3)ア	**対象から感じ取ったイメージの特徴を大切にしながら**，鉛筆のタッチなどを工夫してスケッチさせる。
確かめる段階	C 「物語を伝えあおう」 ・相互鑑賞	Ⅳ	(1)ア	互いの作品に描かれた**モチーフの形の特徴が持つ感じや全体の構図の工夫に着目して**作者の表現のよさを感じ取らせる。

ア
形や色彩、材料、光などの性 質や、それらがもたら感情を理解すること

イ
形や色彩などの特徴を基に
対象のイメージをとらえること

実践事例をご紹介します。

単元１「形を感じて」では、
美術の学習を積み重ねていく上で最も基本となる対象の捉え方とスケッチの基礎的な技能の習得を図りながら，形のもつはたらきを感じ取ることの楽しさを味わわせることをねらいとしました。

そして各段階の指導内容に共通事項アとイの内容をこのように位置づけました。

実践事例Ⅰ

単元1　形を感じて　　STEP1　気付く段階　A 身近なものをみつめて　1時間

ア　ヤカンの鑑賞

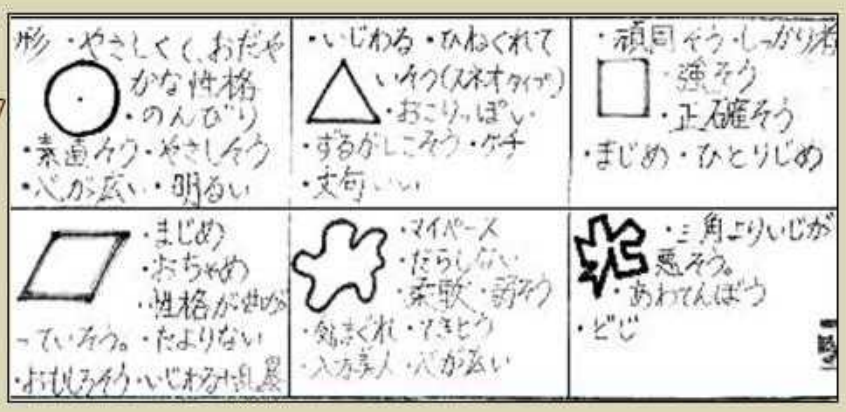
どれが欲しい？

お芝居の役をさせるとしたら？

いろいろな見方ができるようになった。○、△、□やヤカンの勉強で身近なものの形の特徴から性格を想像することがおもしろいと思うようになった。

イ　○△□の鑑賞

○△□の性格は？



学習自己評価の記述

物の見方が一層深まった。前は物をありのままにしか見ていなかったけど、今ではいろいろな視点角度から見ることができるようになった。

気付く段階では、身近なものの形態や基本形態の特徴から様々な情報が得られることに生徒自身が主体的に気付きながら，形のもつ性質や感情効果への興味関心を引き出していくよう授業を進めました。

単元1　「形を感じて」　　題材A　「身近なものをみつめて」

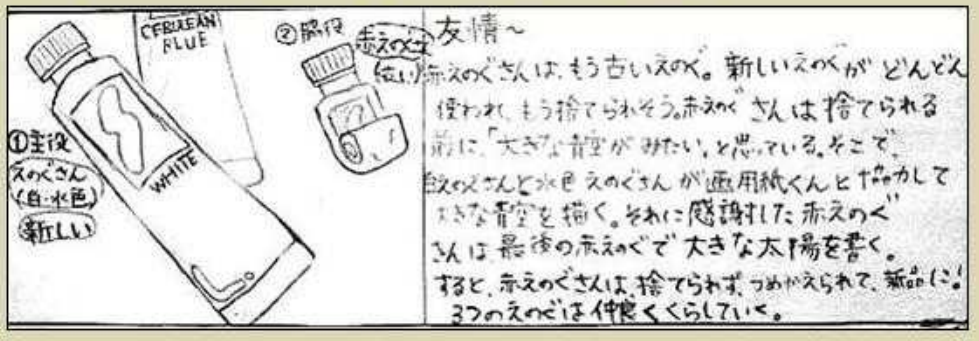
時	教師の主な発問・指示	指導上の留意点
気付く段階 第1時	**ア　ヤカンの鑑賞** 発問　どのヤカンが欲しい？どうしてそれを選んだの？ 発問　お芝居の配役はどのヤカンがふさわしい？　その理由は？ ストーリー： ここは、大江戸八百屋町。美しい町娘が、悪代官にさらわれた。どこからともなく若侍が現れ、悪代官をこらしめ娘を救いだす。 配　　役：　A 若侍　B　悪代官　C　娘　D　父	○４種類のヤカン・ポット等の白黒写真（形に着目するように）を提示。 ○機能性やデザイン性から鑑賞させる。選んだ理由を記入させ発表。 ○他者の意見も記入させ、比較できるようにしておく。 ○形の印象に着目、実用物としてではなく、キャラクターとして鑑賞。 ○配役に選んだ理由を記入。 互いの意見発表し合い多様な感じ方があることにの違かせる。
	イ　○△□の鑑賞 発問　○△□の形はどんな性格？	○幾何形態からの受ける性質を感じ取らせ、他者の意見も記入させ、多様な感じ方があることにの違かせる。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅳ

実践事例Ⅰ

単元1　形を感じて　**STEP2　試す段階**　**B スケッチに挑戦**　1時間

ア 主人公をスカウト　・キャラクター探し　・物語作り

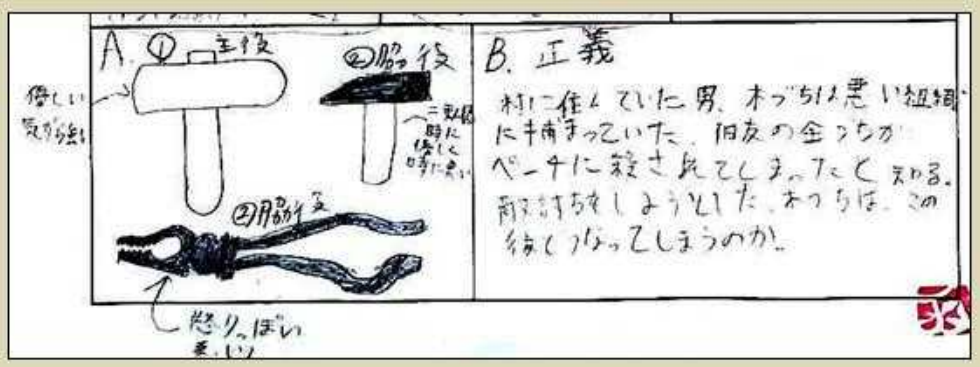
生徒A



一つの身近な物からでも物語が作れることにおどろき感心した。

学習自己評価記述

生徒B



身近な物から話を作るということができるようになったと思う。
いろいろな物の特性を知ることができるようになった。

試す段階では、対象から捉えたイメージを基に個々のテー マを創出させ，単に形を写し取らせるのではなく，自分の感じた対象のイメージを大切にさせながらスケッチの基本的な技能の習得を図っていくことをねらっています。

ステップ1での学習を生かして、身のまわりにある様々なアイテムを主人公にした物語を作成していくことを伝え、主人公をスカウトすることから始めました。そこからストーリーを考えさせました。

単元1　「形を感じて」　題材B　「 スケッチに挑戦 」

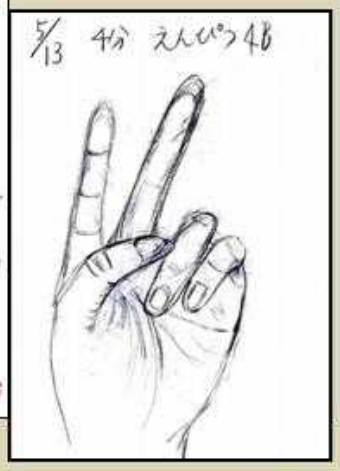
時	教師の主な発問・指示	指導上の留意点
試す段階 第1時	**ア　主人公をスカウト** **・キャラクター探し　・物語作り**	
	指示 身のまわりのもの形の特徴を感じて、主人公をスカウトしよう。	○特に対象の形の特徴からキャラクターを創造する。簡単なスケッチで特徴を記録しておく。
	指示 テーマやストーリーを考えよう。 例　正義　愛　友情　平和　希望・・・	○物語が難しい生徒には、キャラクターの関係を考えさせる。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ

実践事例Ⅰ

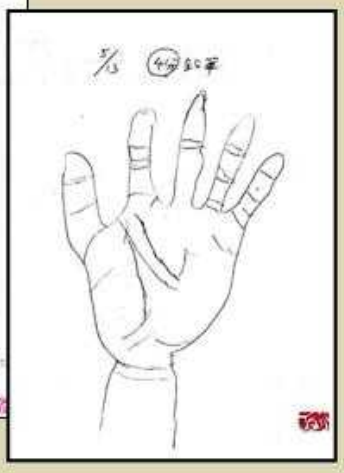
単元1　形を感じて　**STEP2　試す段階**　**B スケッチに挑戦**　1時間

イ　スケッチのコツ　・対象の捉え方　・筆圧 筆勢 筆触

生徒 A



生徒 B



前はシャーペンで書いてばかりだったけど鉛筆のよさを知っていろいろ描くときに使い分けるようにしました。美術では理科と違って線を重ねたり、影をつけたりという違いが分かりました。

学習自己評価記述

スケッチなど絵を描くのはあまり好きではなかったけど、少しずつコツがつかめて、少しずつきれいに描けるようになった。

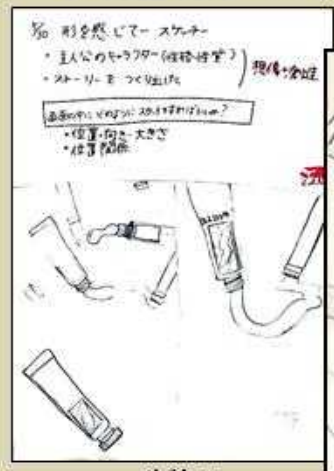
ここでは、これから自分の考えた物語の一場面を制作していくにあたり、スケッチの基礎的な技能として、描画材料の特徴を生かすことや対象の捉え方などについて手をモチーフにスケッチの習得を図りました。

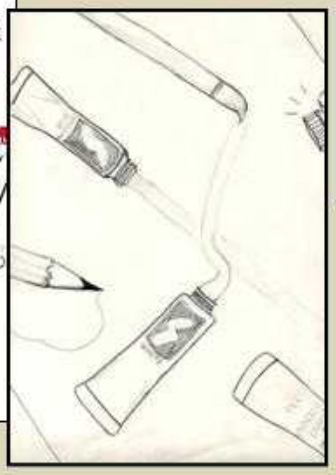
試す段階 **第2時**	**イ　スケッチのコツ** **・対象の捉え方　　・筆圧　筆勢　筆触**	
	指示 鉛筆とシャーペン、どちらがスケッチに向いているか調べてみよう。	○線の太さ、濃さ、タッチの変化などについて比較実験しながらそれぞれの描画材料の特性に気づかせる。
	指示 今日は普段あまり使っていない鉛筆でスケッチしてみよう。	○手をモチーフに先ほど気づいた鉛筆のよさを生かしてスケッチさせる。時間は3分　消しゴムを使わない。
	指示 スケッチしていて困ったことを発表してみよう	○スケッチしながら、困ったことを発表させ黒板に板書しておく。
	指示 先生のスケッチを観察して、気づいたことを発表しよう。	○黒板にチョークでスケッチしている様子を観察させ、自分たちのスケッチの方法と何が違っていたかを発表させ、スケッチのコツを整理しておく。
	指示 気づいたことを生かして、もう一度スケッチしてみよう。	○ポーズを工夫してもよいことを伝え、時間は4分　消しゴム×。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ

実践事例Ⅰ

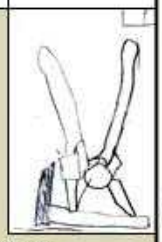
単元1　形を感じて　**STEP2　試す段階**　**B スケッチに挑戦**　1時間

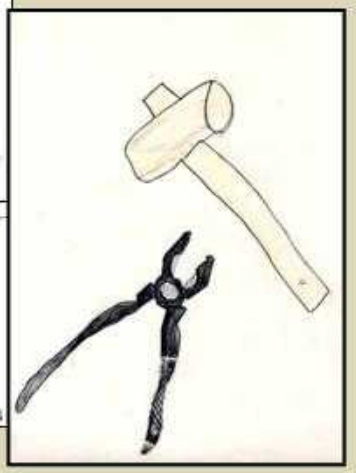
ウ 物語制作　・アイディアスケッチ 構図を工夫しながら　・物語の一場面を選んで制作





生徒 A





生徒 B

よく観察して特徴を生かしたり考えたりして、イメージを絵にできた。
実物の物をよく見、詳しく描くことができました。

学習自己評価記述

前までは物を見て描くことが苦手だったけど、今は見る方向を工夫して上手に描けるようになった。今まで思わなかったところまで目がいったので、将来役に立つと思う。

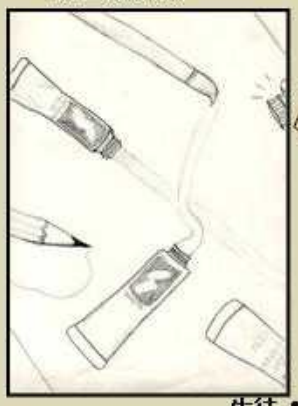
以上の学習を踏まえ、
自分の表したい場面をどのように構成すればよいか、アイディアスッチで構図を確かめさせてから制作に入りました。

試す段階 **第3時**	**ウ 物語制作　・アイディアスケッチ** **指示** 自分が考えたストーリーを絵本にしてみよう。 表したい一場面のどんなふうに表せばよいかアイディアスケッチをかきながら、工夫してみよう **指示** アイディアスケッチで一番自分が表したい様子が確かめられたらスケッチしてみよう。	○自分が表そうとする場面の雰囲気を読者に伝えるために、何に気をつければよいか発表させ、画面づくりのためのコツ（大きさ、位置、数、向　きなどの関係を工夫すること）を整　理しておく。 ○背景やオノマトペは入れないことを伝える。また極端なデフォルメも避けさせる。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

実践事例Ⅰ

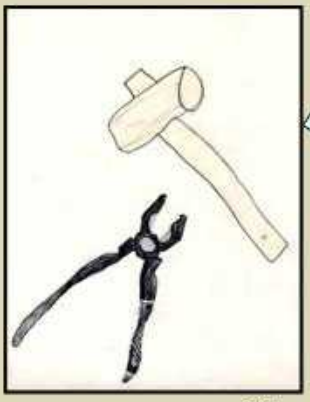
単元1　形を感じて　STEP3　確かめる段階　C　物語を伝えあおう　1時間

・相互鑑賞



生徒 A

もうすぐ捨てられそうな赤絵の具さんのために、白絵の具さんと水色絵の具さんが画用紙君と協力して大きな空を描いてあげた。そのお礼に赤絵の具さんは最後の絵の具で大きな太陽を描いた。すると・・・



生徒 B

木づちは、親友の金づちの敵を取ろうと、ペンチに戦いを挑む。

さて、この後どうなってしまうのか！

ヤカンの鑑賞したときはなんでこんなことするんだろう？不思議だなと思っていたが、***形から色から材質からいろいろな性格を、描き方を生み出すことができる。美術の心は十人十色で答えはないと実感した。***

学習自己評価記述

友達の考えや意見を聞いたりすることでそれぞれの***表し方や感じ方が分かって参考になる。***

この単元の最後の題材として、先ほどの作品について一人ずつ物語を発表させながら相互鑑賞を行いました。

互いの表現の工夫やよさを感じ取らせながら，身近なものを見つめる楽しさや面白さ、また形や構図を工夫して表現することへの関心や意欲を高めることをねらいとしました。

単元１　「形を感じて」　題材C　「 物語を伝え合おう 」

時	教師の主な発問・指示	指導上の留意点
確かめる段階 第1時	・相互鑑賞 指示 できあがった物語の一場面をみんなで鑑賞しよう。 スライドで自分の作品が映しだされたら、その場面のお話をみんなに読んであげましょう。	○提示装置でクラス全員の作品を一枚ずつスクリーンに大きく映しだし、登場するキャラクターやどのような場面を描いたのか説明させていく。友達がどのように 工夫しているかを感じ取らせながら鑑賞させる。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅳ

実践事例Ⅱ

12時間	単元２　「視覚化に挑戦」		
	Ⅰ　感覚や感情を形・色・材料によって、表現きること伝わることの楽しさを味わわせ、形や色彩のはたらきに興味関心を持たせる。		
	題材及び主な学習活動	観・目	指導内容（太字（共通事項））
気付く段階	D 「色を感じて」 ア色でショッピング ・色彩の鑑賞 明度　色相　彩度	Ⅳ (1)ア	色彩の比較鑑賞を行い、お互いの感じ方の多様性に気付かせながら、**色彩のもつはたらきを感じ取らせ理解を図る。**
試す段階	E 「五感をはたらかせて」 ア 五感によるテーマの創出 イ アイディアスケッチ ウ 鑑賞クイズ	Ⅱ (1)ア	感覚や刺激、感情を想起しながら、テーマを創出させる。
		Ⅱ (1)イ	テーマについて**自分なりの形や色彩のイメージを試しながら**豊かに発想を広げ、構想をまとめさせる。
	F 「あの日あの時あの場所で」 ア テーマの創出 イ 色づくりのコツ ・水のコントロール ・三原色による混色 ウ 色づくり エ 水彩技法のコツ ・ドライブラシ にじみ 重色 オ アイディアスケッチ(塗り方) カ 制作（画用紙の特性を工夫）	Ⅱ (2)イ	**形や色彩などの感情効果を理解し、それらの効果を意識しながら**伝えたいイメージの構想を練らせる。
		Ⅲ (3)ア	絵の具や用具の基本的な扱いを身につけ、**描画材料の特性を理解し、テーマにあった形や色、塗り方を工夫させる。**
確かめる段階	G 「私の感じ方友達の感じ方」 ・作品のテーマを形や色彩からテーマを想像する。 ・友達の感じ方と自分の感じ方の違いから自己の作品を客観的に自己評価	Ⅳ (1)ア	作者の工夫や思いについて**形・色・材料の効果を意識したり、全体の雰囲気を感じ取ったりしながら**鑑賞し、感じ取ったことを言葉で伝えあい、自他の感じ方の多様性や、個性のよさに気付かせる。

ア
形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること

イ
形や色彩などの特徴を基に
対象のイメージをとらえること

単元2「視覚化に挑戦」の実践についてご紹介します。

この単元では、先ほどの単元1で学んだことを生かしながら、刺激や感情など非視覚的なものをテーマとした抽象表現を，これまでの学びを意識させながら取り組ませることにより描くことみることの楽しさを体験させながら造形要素の持つ感情効果を一層実感させていくことをねらいとしました。

そして共通事項を各段階の指導内容にこのように位置づけました。

実践事例Ⅱ

単元2　視覚化に挑戦　　STEP1　気付く段階　　D　色を感じて　　1時間

ア　色でショッピング　・色彩の鑑賞　明度　色相　彩度

学習自己評価記述

色から受ける印象って不思議だなと思った。私たちは色から受ける印象を日々感じていることに気付いた。これからは色の印象を理解して生活していきたいと思う。

題材D　「色を感じて」では、同形の品物について色彩の違いに（明度・色相・彩度）着目させ，ウインドショッピングの感覚で鑑賞を行いました。

また、各属性の違いがもたらす感情効果，例えば明度なら軽重，色相なら寒暖，彩度なら新古といったことを，各々の配色の印象の違いから気づかせていきました。

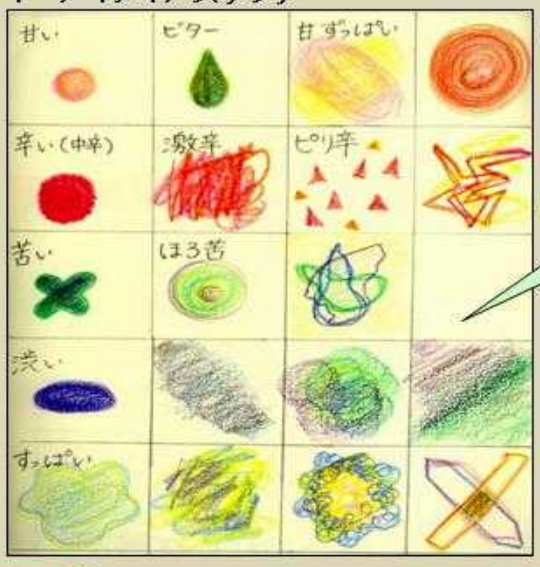
単元2　「視覚化に挑戦」　　題材D　「　色を感じて　」

時	教師の主な発問・指示	指導上の留意点
気付く段階 第1時	ア　色でショッピング ・色彩の鑑賞　明度　色相　彩度 発問 明日から旅行に出かけます。バッグを買いにきました。AとB、どちらが欲しいですか？　その理由は？ 発問 店員さんが持ってみてくださいといいました。二つを持ち比べて気付くことは？ 発問 そうですね。Aは軽くBは重く感じましたね。色の何が違うからかな？ なるほど色の明るさ暗さの違いで軽さや重さの違いを表すことができるんだね。	○高明度、低明度の違いから受ける印象を引き出す。 ○自分の意見と他者の意見を比較できるようにノートに記入。 ○白・灰色・黒の色カード（無彩色）を順に提示し、明るさが変化していることに気付かせる。
	発問 今日はどっちのカップの飲み物が飲みたい？その理由は？ 発問 なるほど赤っぽい色はあたたかく、青っぽい色は冷たく感じられたんだね。色の何が違うからかな？	○暖色、寒色の色味の違いから受ける印象を引き出す。自分の意見と他者の意見を比較できるようにノートに記入。 ○黄・オレンジ・赤の色カード（無彩色）を順に提示し、色みが変化していることに気付かせる。
	発問 どっちのリンゴが食べたいですか。その理由は？ 発問 なるほど、色が真っ赤な方が新鮮な感じがして、濁っている方は腐っているように感じたんだね。これは、色の何が違っているんだろう？ 指示 そうだね、鮮やかさが違っているんだね。	○純色、濁色の彩度の違いから受け取る印象の違いを引きだす。自分の意見と他者の意見を比較できるようにノートに記入。 ○赤の純色から濁色へと変化する様子を色カードを順に提示し、鮮やかさが変化していることに気付かせる。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅳ

実践事例Ⅱ

単元2　視覚化に挑戦　**STEP2**　試す段階　**E**　五感をはたらかせて　2時間

ア　五感によるテーマの創出
イ　アイディアスケッチ



味が見えるとしたらどんな形？どんな色？
アイディアスケッチはどんどん描く。消さない。

ウ　鑑賞クイズ

友達の描いた味をいくつ当てられるかな？

学習自己評価記述

*五感で感じたことを色や形に表せられることを知って表現方法が豊かになった*と思った。
また，*同じ感覚を表すのにもいろいろな色や形で表せることを知っておもしろい*なと思った。

試す段階では2つの題材を設定しています。

一つ目の題材では、五感から得られる情報をテーマとし、目には見えない刺激や感覚を形や色彩のはたらきを生かして抽象表現させ、お互いのテーマを感じとる鑑賞クイズを行い、形や色彩のはたらきへの関心や理解を深め，そこからイメージを捉えたりすることができることを実感させ，描くことみることの楽しさを味わわせていくことをねらいとしました。

単元2　「視覚化に挑戦」　　題材E　「五感をはたらかせて」

時	教師の主な発問・指示	指導上の留意点
試す段階	発問 人間は五感を使って色いろな情報を得ているよね。五感て何かな？	○小学校の学びを想起させる。
	指示 そうだね、視覚聴覚味覚触覚嗅覚だよね。それぞれの感覚器でわかることを黒板に書いていこう。	○わかる事柄をどんどん黒板に書かせ、お互いの気づきを共有させる
第1時	指示 目に見えるものには　形や色があるけど目に見えないものは、色や形で表現できるかな。今日は味を表現できるかどうかやってみよう。	○レモンを描いて酸っぱいとか、ケーキを描いて甘いとかではなくて、舌の上で感じている刺激や感覚を形や色にしていくことを伝える。
	指示 色鉛筆でアイディアスケッチしていこう。	○アイディアスケッチのコツとして、とにかく思いつくものをどんどん描いてみること、たくさん書いてみること、描いたのが気に入らなくても消さないことなどを伝える。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
試す段階	指示 前回のアイディアスケッチの中から一番表したいものを清書してみよう 。	○作品の裏目にはどんな味を表現したか記入させておく。
	指示 みんなの作品をクイズに出すよ。いくつ当てられるかな。	○提示装置で全員の作品を一枚ずつスクリーンに大きく映しだし、感じた味を記入させていく。
第2時	指示 それでは順に答えを発表しよう。	○一人一人に答えを発表させ、自己採点させる。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ

実践事例Ⅱ

単元2　視覚化に挑戦　**STEP2**　試す段階　**F**　あの日あの時あの場所で　0.5時間

アテーマの創出

この夏休みの忘れられない出来事を思い出して、どんな事があったか書き出してみよう！！

◎ うらじゃに出場したこと。
・城と祭に行ったこと。
・吹奏楽コンクールに出場したこと。
・コンベックス岡山のステージに出場したこと。

夏休みの出来事をピックアップ

私はこの夏休みに、「未来キッズ隊」・「夢未来キッズ隊」
というチームでうらじゃ踊りに出場しました。
昨年は賞がとれず、涙、涙。今年こそ、と思ったけど、
今年もダメで、涙、涙、涙。
本当に悲しくて、辛くて、くやしかったです。
来年こそは練習をして、リーダーとしての責任をもって、
一生けんめいがんばって、賞をとりたいです。

一番印象に残った出来事を体験したときの気持ちが他の人にもわかるように作文

ここから2つ目の題材になります。

ここでは感情をテーマとし、アクリル絵の具の扱い方などの習得を図りながら、制作に取り組ませました。

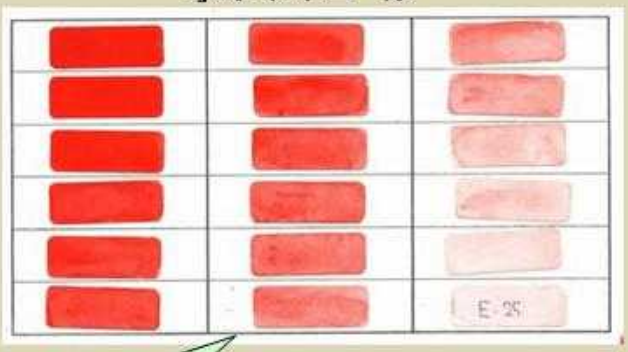
まず主題の発想段階では、自分の体験の中で最も忘れられない出来事をテーマとし，そのときの感情わかるように作文によってテーマを明確にさせておきました。

実践事例Ⅱ

単元2　視覚化に挑戦　**STEP2**　試す段階　**F**　あの日あの時あの場所で　2.5時間

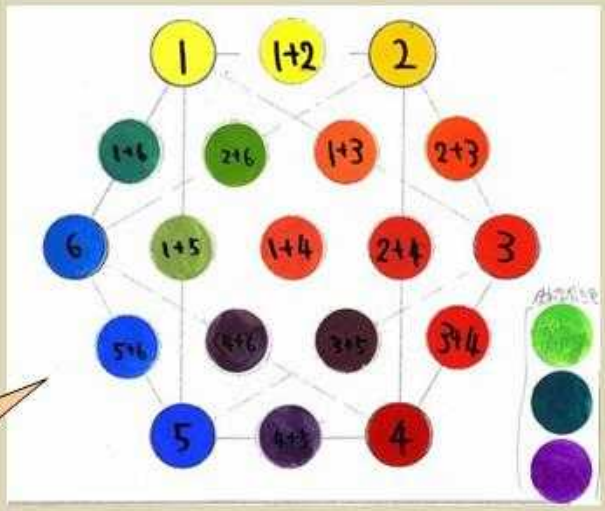
イ　色づくりのコツ

・水のコントロール



一色で何色
つくれるかな？

・三原色による混色実験



絵の具セットにはどうして
赤色系、青色系、黄色系が
2色ずつあるんだろう？

学習自己評価記述

中学校に入学する以前は例えば混色なら赤と黄はオレンジ，くらいにしか感じていなかったが中学で詳しく学びはじめてにごりの少ない混ぜ方など ***少し発展した知識を知った。またそれを実際にやってみることで塗り方描き方のコツが見えてきてとてもおもしろかった。***

この題材ではアイディアスケッチを進めていくにあたり、アクリル絵の具の特徴や色づくりにおける水分量のコントロールや3原色による混色の違いなど、用具の扱いなどと合わせ，基礎的な知識技能の習得を図ることをねらいとしました。

単元2　「視覚化に挑戦」　題材F　「あの日あの時あの場所で」		
時	教師の主な発問・指示	指導上の留意点
試す段階 第4時	・水のコントロール 発問 ところで、みんなは思うように自分の色が作れるかな？一つの色からたくさんの色が作れるかな？どうすればいい？やってみよう。	○自分の好きな色（白はのぞく）を選ばせ、タックシールにできた色から塗らせていく。 できた色をグラデーションの状態になるよう貼らせ整理させる。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅳ
試す段階 第5時	・三原色による混色実験 発問 この前は、一つの色で、たくさん作ったけど、今日は、2つの色を混ぜて色づくりを試してみよう。みんなは色の中で、混ぜても作ることが難しい色があるのを知ってる？オレンジや緑はどんな色を混ぜればできるのかな？	○小学校までの学びを想起させる。
	発問 みんなのセットには・・・それぞれ2色ずつあるけど混ぜてできる色は同じかな、違うかな？	○どんな色ができそうか予想をてさせる。
	指示 それぞれの混色の違いを確かめてみよう。	○レモンy、yディープ、バーミリオン、カーマイン、セルリアンb、コバルトbをそれぞれ互いに混色させ、タックシールにできた色から塗らせていく。
	発問 どうして2色づつあるのかな？	○黄色青色系の混色結果を例にきれいな緑と濁った緑になることに着目させ、色をつくる際、絵の具を選ぶことの大切さに気付かせる。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅳ

実践事例Ⅱ

単元2　視覚化に挑戦　**STEP2　試す段階**　**F　あの日あの時あの場所で**　2時間

ウ　アイディアスケッチ（色づくり）　⇒　エ　水彩技法のコツ　⇒　オ　アイディアスケッチ（塗り方）

学習自己評価記述

重色やドライブラシなど今までは知らずに何となくできていたものが、学習してからは*意図的に使っていけるようになった。*ここの場面はこの塗り方、こっちの場面はこの塗り方をしようというふうに*自分の表現が広がった。*

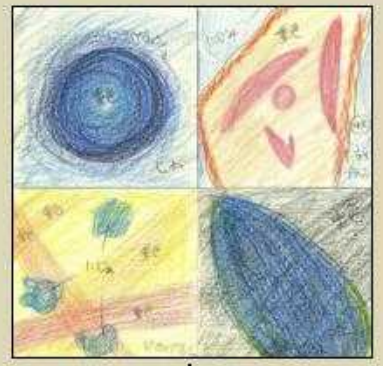
そして、先ほどの作文で確かめたテーマについて
まず、どのような色で表現すればよいか色づくりをしながらアイディアスケッチさせました。
その過程で、彩色の基本としての重色やにじみといった水彩技法を試させる場面　を導入し、
塗り方も工夫させながら更にアイディアスケッチを進めさせました

単元2　「視覚化に挑戦」　題材F「あの日あの時あの場所で」		
時	教師の主な発問・指示	指導上の留意点
試す段階	**ウ　アイディアスケッチ（色づくり ）**	
	指示　自分の気持ちを表したい色をつくりながら、一枚の紙につき一つの気持ちをアイディアスケッチしてみよう。	○以前書いたテーマに書いた感情について、チューブから出した色ではなく自分の色をつくることを意識させる。
第6・7時	**エ　水彩技法のコツ**	
	発問さあこの絵を見て、どれとどれが仲間かな。どんな感じがする。どんな塗り方の工夫がしてあるかな。実はここにそれと同じ塗り方のサンプルがあるよ、どれがそうかな。	○にじみ、ドライブラシ、重色技法を生かした生徒作品を２枚づつ提示し、対をつくらせながらその塗り方の特徴に気付かせ、その表現技法がもたらす印象について話合わせる。
	指示　こんな塗り方をするにはどうしたらいいのかな？	○技法のコツを予想させ、ポイントを整理して板書する。
	指示見本のような効果をがしてみよう。	○小さい画用紙を配付し、見本のような効果になるように試し塗りをさせていく。
	指示うまくいかない人は先生がデモンストレーションするから見に来なさい。	○説明なしで所作だけを見せる。
	オ　アイディアスケッチ（塗り方）	
	指示このやり方はみんなの表したい気持ちを表現するのに使えそうかな。今度は塗り方も工夫しながらアイディアスケッチしてみよう。	○これらの技法を使うかどうかは生徒に決めさせる。
	指示学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

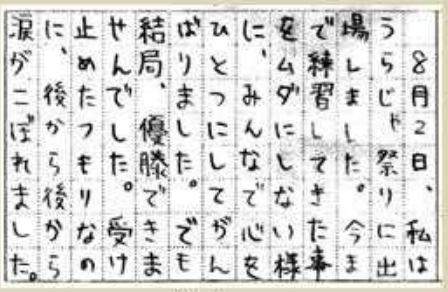
実践事例Ⅱ

単元2　視覚化に挑戦　**STEP2**　試す段階　**F**　あの日あの時あの場所で　2時間

カ 制 作（描くだけでなく、画用紙の特性等もを工夫して）



エスキース



8月2日、私は
うらじド祭りに出
場しました。今ま
で練習してきた事
をムダにしない様
に、みんなで心を
ひとつにしてがん
ばりました。でも
結局、優勝でき
せんでした。受け
止めたつもりなの
に、後から後から
涙がこぼれました。

作文

「ある夏の日」 10cm×10cm

学習自己評価
記　述

感情を視覚化するのに，*今までに習った「ドライブラシ」「にじみ」などを使うことにより，表現しようとしたものが表せた。*

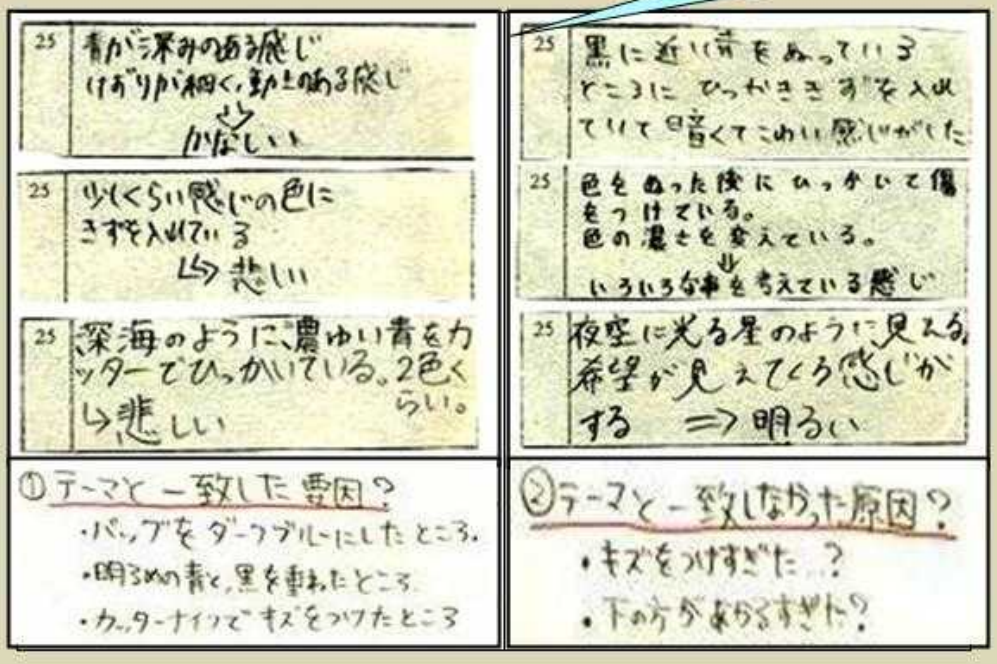
ここから制作に入るのですが、
まず、描くことに加えて，画用紙の特性（折る，破る，切る，貼る，ひっかく，しわを入れるなど）についても 工夫できることに気づかせておきます。
そして、これまでの学習の中で身につけてきた知識や技能を活用することを意識させるために、エスキースで再度　作品の構想を練らせました。

試す段階 第8・9時	**カ　制　作**	
	発問 今日はいよいよ本番です。これまで習ってきたことを生かして、そのときの気持ちを表現してみよう。 そのとき画用紙の特性を生かしてみよう。 画用紙は塗るだけじゃなくて他にできることは？	○画用紙の特性として、切る・折る破る・貼るなどができることに気付かせる。
	指示 こうしたことも生かしてどんな作品にしていくか完成予想図を描いてみよう。	○色鉛筆でエスキースを描かせどんな技法や構図にするか図やメモで確かめさせる。
	指示 確かめられた人から準備をして制作を始めよう。	○できた作品の裏面には、鑑賞の際、テーマを確かめられるように作文を貼らせておく。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅲ

実践事例Ⅱ

単元2 視覚化に挑戦 | STEP3 確かめる段階 | G 私の感じ方友達の感じ方 | 2時間

ア 形や色彩，塗り方などからテーマを予想、コメント記入 → コメント交換 → コメント分類 → イ 友達の感じ方と自分の感じ方の違いから自己の作品を客観的に評価。



学習自己評価記述

友達の感じたことや気持ちなどが表現されているものを鑑賞してみて*自分との価値観の違いや表現の方法などを学んだ。*

また，*自分の感じ方なども知ることができた。*

確かめる段階では、形･色･材料のもつ感情効果への理解を深めながら，造形的な表現が感情を伝えたり感じ取ったりする手段となり得ることに自ずと気づくことをねらいとした相互鑑賞を行いました。

まず　形や色彩、塗り方などを手がかりに、テーマを予想させ、なぜそう感じたのかをコメントカードに記入させました。

次に互いの感じ取ったことをコメントカードで伝え合い，自分が表したかったテーマと一致したものとそうでないものとに分類し、互いの感じ方の相違に着目させながら自己分析を行わせました。

単元2 「視覚化に挑戦」　題材F 「私の感じ方友達の感じ方」

時	教師の主な発問･指示	指導上の留意点
確かめる段階 第1・2時	指示 友達の作品のテーマを読み取ってみよう。	○班（4人）ごとに、五分間で、他の班の作品を順に回覧させる。 ○鑑賞のポイントとして、形や色、塗り方、画用紙がどのように工夫されているかに着目させる ○ワークシートにテーマと理由を記入させておく。
	指示 自分が書いたコメントを交換しよう。	○ワークシートを一人分ずつに切り分け、作者に渡す。
	指示 もらったコメントを自分のテーマと一致していたものとそうでないものに分けてノートに整理して貼ろう。	○ノートの見開きに、比較できるように整理させる。
	指示 どうしてうまく伝わったのか、うまく伝わらなかったのかその原因を考えよう。鑑賞してみて気付いたことをまとめてみよう。	○それぞれの要因を分析させる。
	指示 学習前後の変化（何が身に付き何が分かったか）を書き自己評価しよう。	○自己評価観点は、Ⅰ・Ⅳ

成 果

検証方法

A 身近なものをみつめて
ア ヤカンの鑑賞
イ ○△□の鑑賞
気付く

B スケッチに挑戦
ア 主人公をスカウト
・キャラクター探し
・テーマ作り
イ スケッチのコツ
・対象の捉え方
・筆圧、筆勢、筆触
ウ 物語制作
・アイディアスケッチ
構図の工夫
・物語の一場面を選んで制作
試 す

C 物語を伝えあおう
・相互鑑賞
確かめる

単元1 形を感じて

D 色を感じて
ア 色でショッピング
・色彩の鑑賞
明度
色相
彩度
気付く

E 五感をはたらかせて
ア 五感によるテーマの創出
イ アイディアスケッチ
ウ 鑑賞クイズ

F「あの日あの時あの場所で」
ア テーマの創出
イ 色づくりのコツ
・水のコントロール
・三原色による混色
ウ アイディアスケッチ(色づくり)
エ 水彩技法のコツ
・ドライブラシ にじみ 重色
オ アイディアスケッチ(塗り方)
カ 制作(画用紙の特性を工夫)
試 す

G 私の感じ方 友達の感じ方
・作品のテーマを形や色彩からテーマを想像する。
・友達の感じ方と自分の感じ方の違いから自己の作品を客観的に評価。
確かめる

単元2 視覚化に挑戦

入学時　単元1 終了時　単元2 終了時

関心意欲態度(喜びや価値意識)　発想や構想の能力　創造的な技能　鑑賞の能力

生徒の授業前後の各観点に対する感じ方の変化を検証

今回の研究の検証方法として、入学時、単元1単元2終了時の 生徒たちの美術の学びに対する喜びや価値意識等の関心意欲態度、 発想や構想の能力･創造的な技能･鑑賞の能力の変化について、

成 果

授業前後で行ったアンケートの内容

美術への関心意欲態度	A	美術を学ぶ楽しさを感じる。
	B	美術を学ぶことの価値や必要感を感じる。
発想構想の能力	C	自分の表したい感じの発想を広げ構想をまとめていく力が身に付いている。
創造的な技能	D	自分の表したい感じを形や色彩，材料などを創意工夫して表現を追究する力が身に付いている。
鑑賞の能力	E	身近な自然やもののよさ美しさ，自他の表現の意図や工夫を感じ取る力が身に付いている。

回答5段階
■ 1 あてはまらない　□ 2 あまりあてはまらない
□ 3 どちらともいえない
■ 4 概ねあてはまる　■ 5 あてはまる

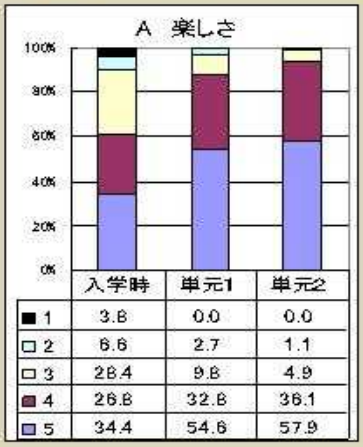
5段階の回答人数割合の変化と生徒の記述により検証

このような内容のアンケート調査を実施し，

それぞれの項目対する5段階の回答人数割合の変化と生徒の記述により今回の実践の成果を検証しました。

成 果

アンケート結果　項目**A**　　美術を学ぶ楽しさを感じる。



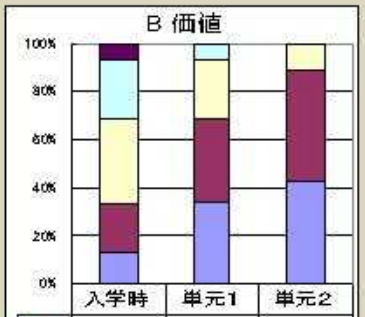
	入学時	単元1	単元2
1	3.8	0.0	0.0
2	6.6	2.7	1.1
3	28.4	9.8	4.9
4	26.8	32.8	36.1
5	34.4	54.6	57.9

中学校に入学して美術という教科は何だろうと思っていた。スケッチするのがとても大変でとても難しいとも思っていた。
しかし美術というものはとても自由ですごく楽しい授業だとわかった。これからもっと美術の力を身につけたい。

小学校の頃はポスターを描きましょうとかこの題で描きましょうとかが多かったです。
中学の美術は自分で選んで自分で考えて表現します。ちょっと難しいけれど自分が表現したいと思っているものを表現できるととてもうれしいです。

成 果

アンケート結果　項目**B**　美術を学ぶことの価値や必要感を感じる。



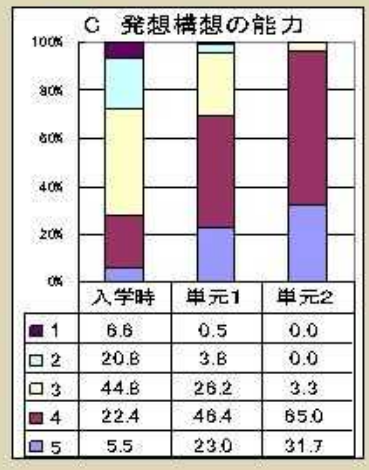
	入学時	単元1	単元2
1	6.6	0.0	0.0
2	24.6	6.6	0.0
3	35.5	24.6	10.9
4	20.2	34.4	46.4
5	13.1	34.4	42.6

図工なんてやってもためになるのかなと思ったりしていました。でも楽しいからやっていました。中学の美術で「美術」というのは、ただ描いたりつくったりすることだけじゃないことがわかりました。自分で感じたことを表現するということがわかりました。

美術は文章だけでは表せないものを表し、見る人を考えさせ楽しませ、描く私も考え楽しむことができます。色々なところからものを見るとおもしろいと思いました。
美術は「暗記して、覚えて、答えは一つ」という科目ではないのがすごいところだと思います。

成 果

アンケート結果　項目**C**　　自分の表したい感じの発想を広げ構想をまとめていく力が身に付いている。



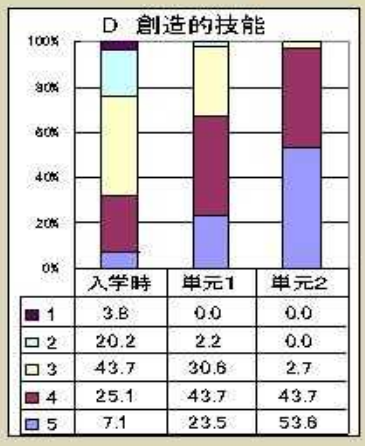
	入学時	単元1	単元2
1	6.6	0.5	0.0
2	20.8	3.8	0.0
3	44.8	26.2	3.3
4	22.4	46.4	65.0
5	5.5	23.0	31.7

小学校のときもいろいろな発想はしていました。
今は自分の気持ちがどうしたら表れるだろうと考えながら1つのことに限らずたくさん表せるようになってきました。構想をまとめるのも上手になったと思います。

小学校の頃は「これでいいや」と適当に色をつくり何も考えずに塗っていた。
しかし授業のおかげで形や色を意識することの大切さを学んだ。そして発想がとても多く出てくるようになった。

成 果

アンケート結果　項目**D**　　自分の表したい感じを形や色彩，材料などを創意工夫して表現を追究する力が身に付いている。



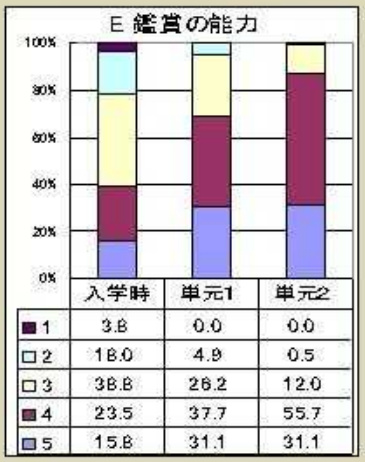
	入学時	単元1	単元2
1	3.8	0.0	0.0
2	20.2	2.2	0.0
3	43.7	30.6	2.7
4	25.1	43.7	43.7
5	7.1	23.5	53.6

小学校のときは描き方とかはあまり意識せず同じような絵ばかりだったと思います。
今はこの筆はあっているかなとかこの描き方だと表現できるかなとか工夫できるようになりました。
もっといろいろな表し方が知りたいなと思うようになりました。

小学校の頃は何を表したいかどんな工夫をすればよいかなど一回も考えたことがなかった。
しかし，今は表したい感じを形や色などを気にしながら塗ることができた。もっともっと表現を追究して力を身につけたい。

成 果

アンケート結果　項目E　　身近な自然やもののよさ美しさ，自他の表現の意図や工夫を感じ取る力が身に付いている。

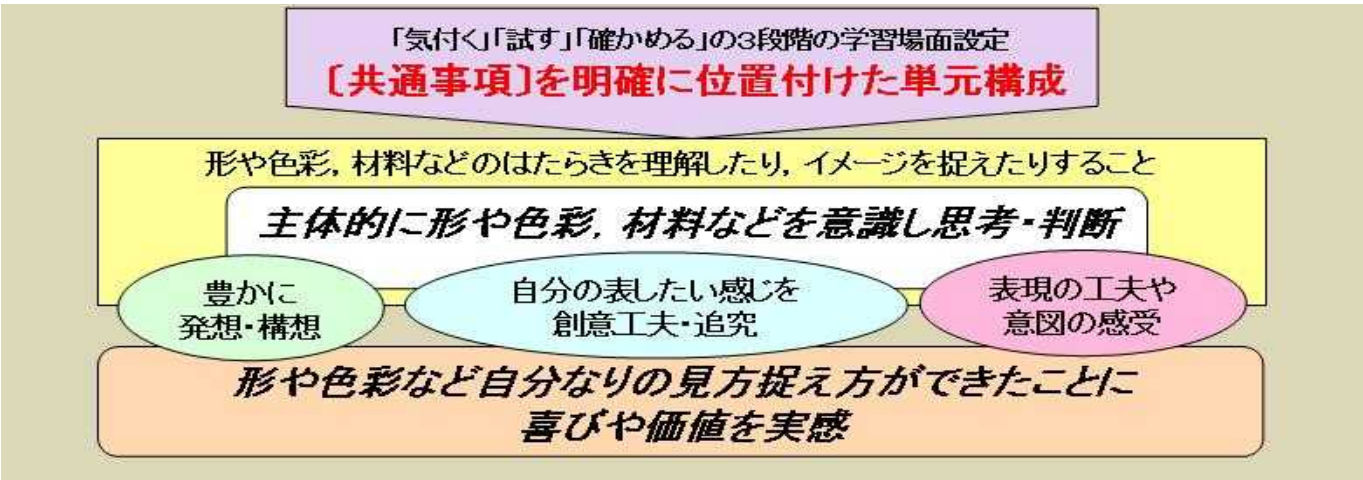


	入学時	単元1	単元2
1	3.8	0.0	0.0
2	18.0	4.9	0.5
3	38.8	26.2	12.0
4	23.5	37.7	55.7
5	15.8	31.1	31.1

鑑賞の授業では，友達と意見を交換しあうことで自分になかった意見もたくさんわかっていろいろな見方が学べられたと思う。
これからはいままで習ってきたことを生かして一つの作品をいろんな方向から見られるようにがんばっていきたい。

今まで「上手かどうか」で人や自分の作品を判断していたのが「どんな思いがこの作品に込められているか」で人や自分の作品を見ることができるようになりました。
そこから美術館や展覧会へいくのも好きになりました。

今回の研究の成果として、
〔共通事項〕を各指導内容に明確に位置付けた単元構成のもと，
生徒は，形や色彩，材料などのはたらきを理解したり，イメージを捉えたりすることによって，主体的に形や色彩，材料などを意識し思考・判断しながら，豊かに発想や構想を巡らし，自分なりの表現を創意工夫して追究するようになり，鑑賞においては，作者の表現の工夫や意図を感じ取るようになったものと思われます。
そして，こうした学習を通して,自分なりの見方捉え方を身につけられたことで，美術を学ぶことへの喜びや価値を実感している姿を確かめることができました。



今後の課題

・彫刻，デザイン，工芸分野及び3年間を通した検証

・小学校との系統性を重視した実践

研究成果の普及

・実践発表会などの形で紹介

今後の展望

大学と連携して

・美術科の役割に対する共通認識

・現授業時数における効果的なカリキュラムを構築提案

★今後の課題としては、
　後続の彫刻，デザイン，工芸分野及び３年間を通した指導計画による検証を行っていくことや、小学校との系統性を視野に入れた実践を行っていきたいと考えています。

★研究成果の普及については、
　本校では，全教科共通の主題で取り組む研究とは別に，年に数回，各教科独自で行う「実践発表会」を開催しています。こうした機会を捉え　本研究で実践した事例について，公開授業及び協議会，題材研究会などの形で紹介していきたいと考えています。

★今後の展望は、
　今回の実践結果を受け，
　現在，岡山大学大学院と連携して美術科の役割に対する共通認識を図り，カリキュラムの構築に着手しようとしています。
　3年間で学びを積み重ね活用しながら「豊かな情操」を備えた生徒の育成を目指し，大学と附属校が一体となって，現授業時数における効果的なカリキュラムを構築し提案することで，寄与できることを願っています。